

## 第二章 本市におけるシティプロモーションの現状等

### 1 これまでの取組状況

本市では、以下のシティプロモーションを実施してきました。

取組時期	取 組	所 管 課
平成22年～	映画・ドラマ撮影実態の紹介 (市ホームページ)	総務課（現総務人権課）、 政策課、都市整備課、 生涯学習課
平成23年3月～	イメージキャラクターわこうっちの活用	産業支援課
平成24年5月～	和光ブランドの認定	産業支援課
平成24年8月～	和光市市民文化親善大使の委嘱 (和太鼓会 和光太鼓)	人権文化課 (現総務人権課)
平成28年1月～	和光市駅前トイレネーミングライツの導入	政策課
平成27年2月～	地元企業HONDAとの連携（バイク展示）	政策課
平成27年9月～	和光市応援団長の委嘱・活用	秘書広報課
平成27年10月～	様々な業界の第一線で活躍する人の紹介 (市ホームページ)	秘書広報課
平成28年1月～	西武ライオンズフレンドリーシティ協定の 締結・連携	政策課
平成28年7月～	記念撮影スペースの設置	秘書広報課
平成28年7月～8月	リオ・デ・ジャネイロオリンピック出場選手 の応援（壮行会・報告会の実施）	秘書広報課

## 2 各種調査等から見える本市の現状

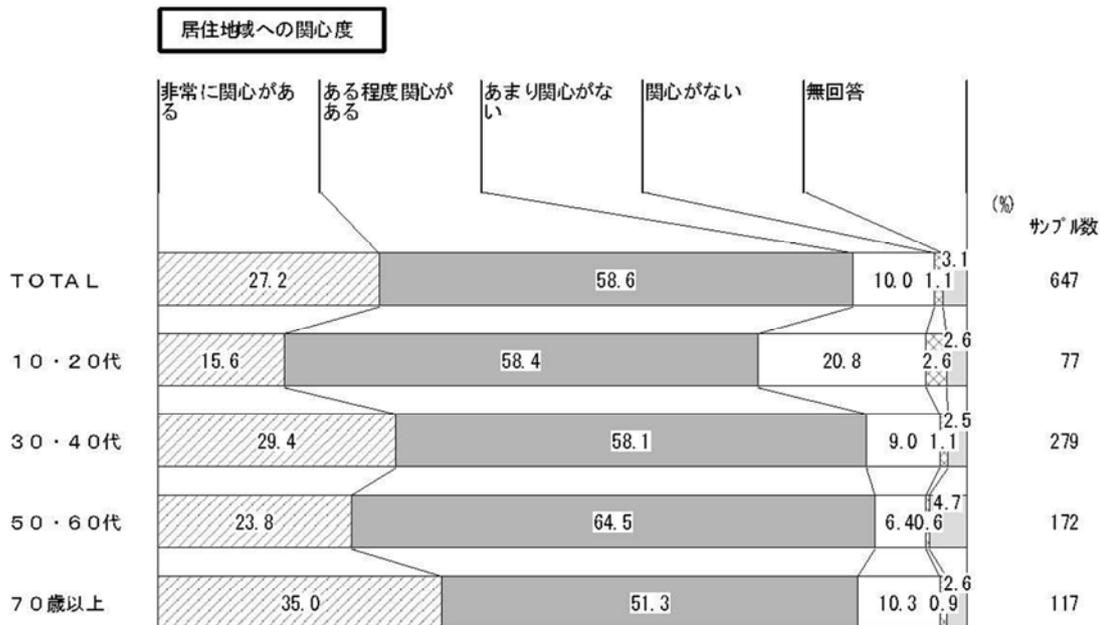
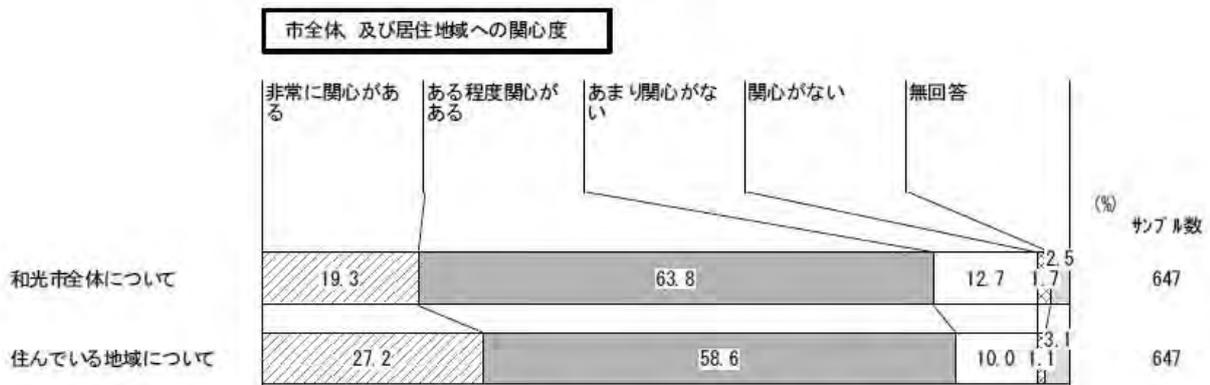
市民意識調査や各種調査の結果をもとに、本市の現状を整理しました。

### (1) 市民意識調査（平成27年5月）から見える本市の現状

#### ① 市全体について及び居住地への関心度

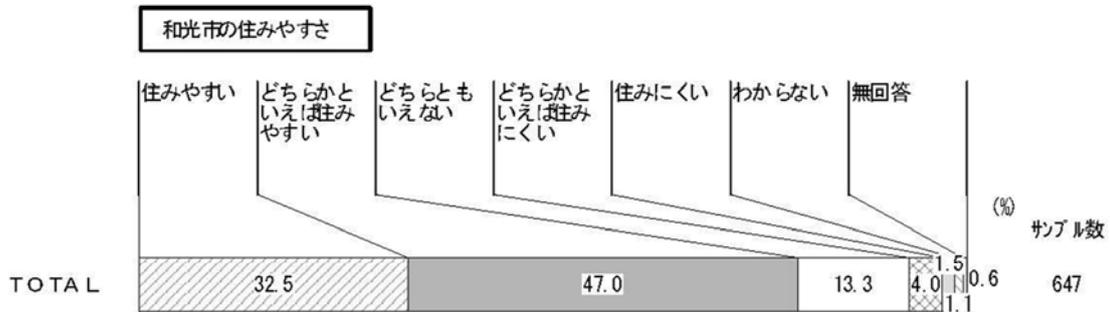
市全体への関心度については、「非常に関心がある」人は19.3%、「ある程度関心がある」人は63.8%である。一方、自分の住んでいる地域について「非常に関心がある」人は27.2%、「ある程度関心がある」人は58.6%となっており、いずれも8割以上の人が、市全体や自分の居住地に関心を持っていることがわかる。

居住地への関心度については、年代別にみると、「あまり関心がない」「関心がない」の回答率は特に10・20代で多く23.4%となっている。



② 住みやすさ

本市の住みやすさについては、「住みやすい」と回答した人は32.5%、「どちらかといえば住みやすい」と回答した人が47.0%となっており、合計すると8割近くの人は「和光市は住みやすい」と考えていることがわかる。

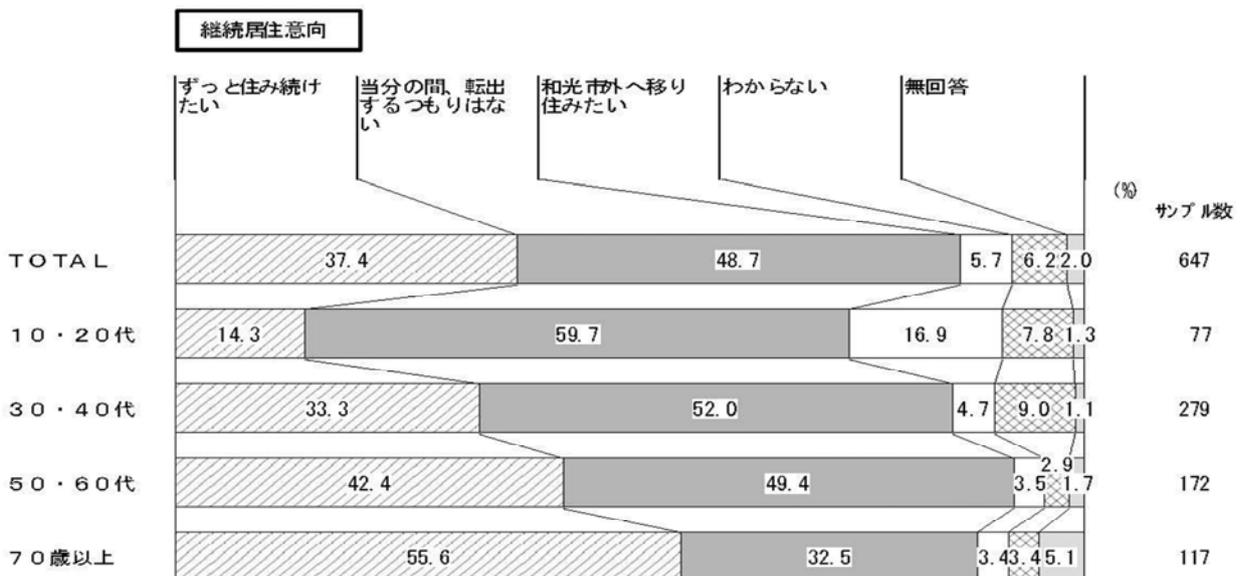


③ 住み続けたい理由・市外へ移り住みたい理由

本市の継続居留意向については、「ずっと住み続けたい」と回答した人は37.4%、「当分の間、転出するつもりはない」と回答した人が48.7%となっており、合計すると8割以上の方が、継続居住の意向を示していることがわかる。

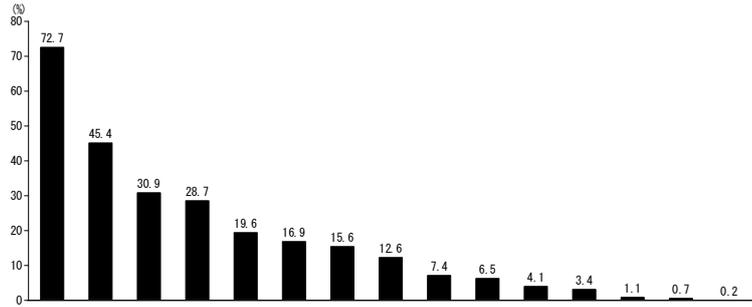
また、本市に住み続けたいと思う理由としては、「交通の便がよい」と回答した人が72.7%と最も多く、次いで「住み慣れて愛着がある」45.4%、「自然環境がよい」30.9%と続いている。年代別にみると、「住み慣れて愛着がある」と回答した年代は、50・60代で特に高く約6割となっているが、30・40代では4割を下回っている。

「市外に移り住みたい」と回答した人は5.7%と少数だが、その理由としては、「交通の便が悪い」「買い物の便が悪い」ことを挙げる人が37.8%と最も多い。年代別に見ると、20代では「仕事や学校の都合」が58.3%と最も多い。



和光市に住み続けたい理由（3つまで）

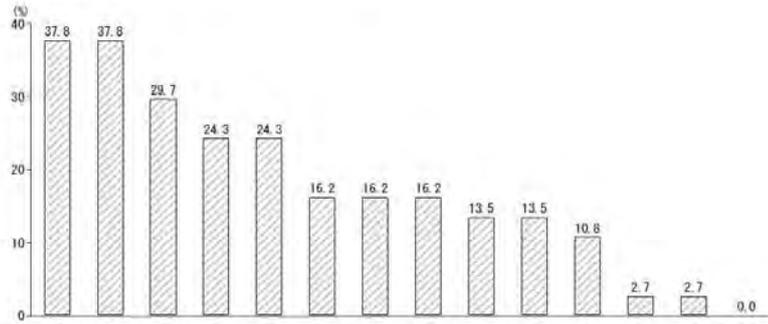
■ TOTAL n=557



*問2.2 年代（4区分）	n	4	8	1	11	10	5	9	12	7	2	6	3	13	14	15
		交通の便がよい	住み慣れて愛着がある	自然環境がよい	住宅の都合	仕事や学校の都合	買い物の便がよい	安心して暮らせる（安全だが安心）	家族の都合	人間関係がよい	公共公益施設が充実している	子どもの教育環境がよい	行政サービスが充実している	その他	特に理由はない	無回答
0 TOTAL	557	72.7	45.4	30.9	28.7	19.6	16.9	15.6	12.6	7.4	6.5	4.1	3.4	1.1	0.7	0.2
1 10・20代	57	78.9	47.4	15.8	14.0	29.8	21.1	17.5	17.5	7.0	5.3	1.8	1.8	0.0	3.5	0.0
2 30・40代	238	71.8	34.0	22.7	34.9	28.6	14.3	14.7	11.8	7.1	7.1	8.4	5.5	1.3	0.0	0.4
3 50・60代	158	72.2	59.5	38.0	30.4	13.9	17.7	13.9	10.8	8.2	3.2	0.6	1.3	0.6	0.0	0.0
4 70歳以上	103	71.8	49.5	46.6	20.4	1.9	19.4	19.4	14.6	6.8	10.7	1.0	2.9	1.9	1.9	0.0
5 無回答	1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

和光市以外に移り住みたい理由（0は3つまで）

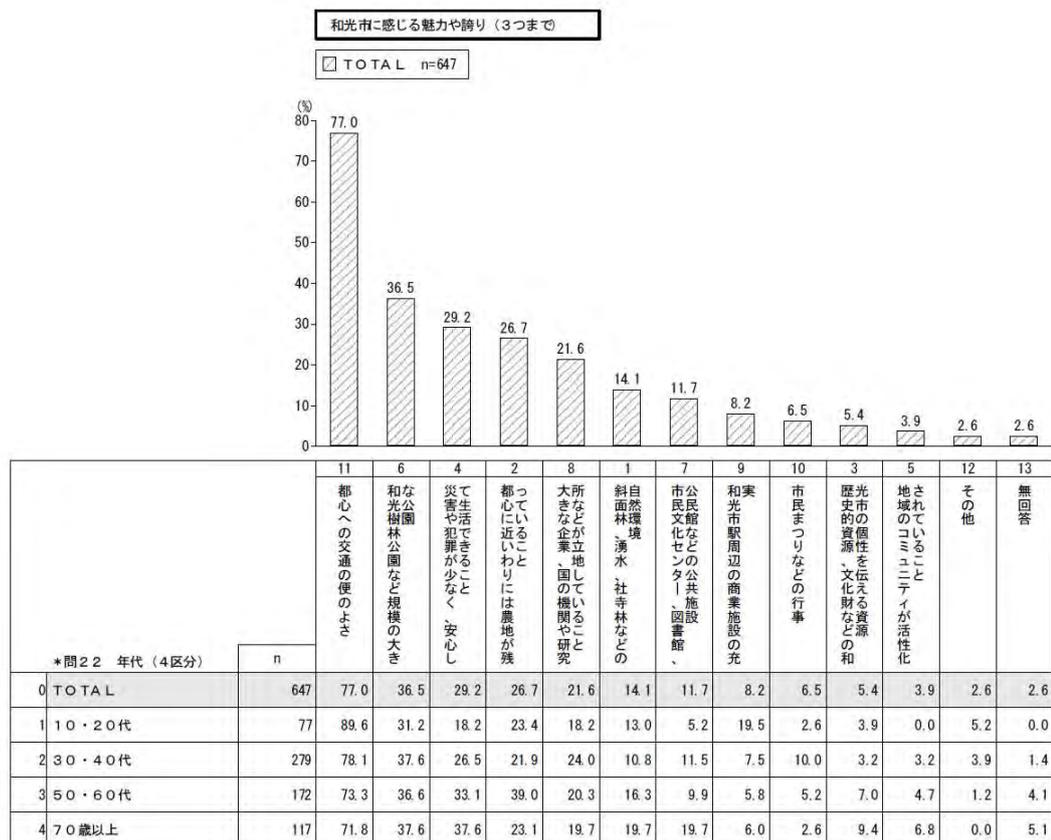
□ TOTAL n=37



問2.2 年代	n	4	5	10	2	3	11	12	13	1	9	8	6	7	14
		交通の便が悪い	買い物の便が悪い	仕事や学校の都合	公共公益施設が充実していない	行政サービスが充実していない	住宅の都合	家族の都合	その他	自然環境がよくない	安心して暮らせない（安全でない）	和光市に愛着がない	子どもの教育環境が悪い	人間関係が悪い	特に理由はない
0 TOTAL	37	37.8	37.8	29.7	24.3	24.3	16.2	16.2	16.2	13.5	13.5	10.8	2.7	2.7	0.0
1 10代	1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2 20代	12	16.7	41.7	58.3	8.3	0.0	25.0	33.3	33.3	0.0	16.7	8.3	0.0	0.0	0.0
3 30代	8	37.5	25.0	25.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	12.5	12.5	25.0	12.5	0.0	0.0
4 40代	5	0.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5 50代	4	50.0	25.0	0.0	50.0	75.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0
6 60代	2	100.0	100.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7 70歳以上	4	100.0	75.0	0.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0

④ 市に魅力や誇りを感じるどころ

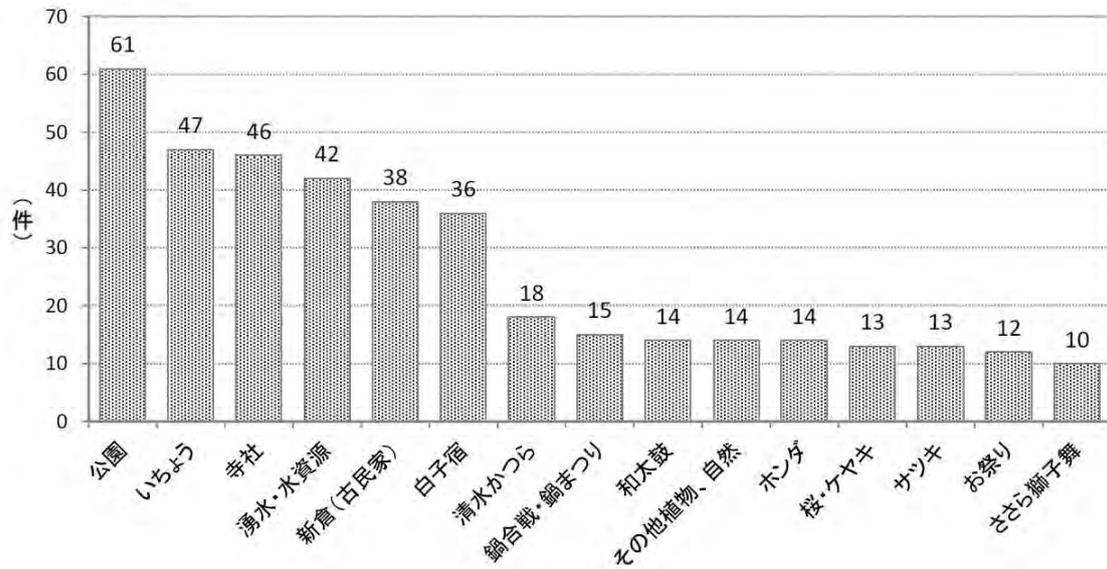
市に魅力や誇りを感じるどころとしては、「都心への交通の便のよさ」と回答した人が77.0%と最も多い。その他には、「和光樹林公園など規模の大きな公園」36.5%、「災害や犯罪が少なく、安心して生活できること」29.2%などの回答がみられる。年代別にみると、「都心への交通の便の良さ」は、10・20代で89.6%と最も多い。また、10・20代では、「和光市駅周辺の商業施設の充実」も他の年代と比較して多くなっている。



⑤ 「和光市の地域資源」として具体的に思い浮かべるもの

市の地域資源として思い浮かべるものとして、「公園(樹林公園)」が最も多く(61件)、次いで「いちょう」(47件)、「寺社(寺、神社、観音)」(46件)と続いている。年代別にみると、30代~60代で「公園」を回答する件数が最も多い。

※ 10件以上を表示



※表内の数値は件数

	1位		2位		3位		4位		5位	
10・20代	いちょう	13	湧水・水資源	7	公園	5	新倉(古民家)	4	サツキ	3
30・40代	公園	29	寺社	22	新倉(古民家)	19	白子宿	18	いちょう	17
50・60代	公園	19	いちょう	12	湧水・水資源	12	白子宿	10	白子宿・寺社(同立順位)	10
70代以上	寺社	12	湧水・水資源	11	新倉(古民家)	9	公園	8	白子宿	7

## (2) 各種調査から見える本市の認知度、イメージ

株式会社リクルート住まいカンパニーでは、関東圏（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・茨城県）に居住している人を対象にインターネットによるアンケート調査「みんなが選んだ住みたい街ランキング」等を実施しています。

この調査結果については、市外から見える本市のイメージを捉えていることから、市民意識調査と併せて本市の現状を知る上での参考とします。

### ① みんなが選んだ住みたい街ランキング2016（関東）

（出典：不動産・住宅情報サイト「SUUMO（スーモ）」）

#### ● 「これから人気が出そうな郊外の街ランキング」第3位

「これから人気が出そうな郊外の街ランキング」は、東京23区以外の街が対象となるランキングです。

駅周りの商業施設が充実している上位二市に次ぎ本市が選ばれた理由としては、副都心線の開業で都内へのアクセスが向上し、東京都心近接のベッドタウンとしての利便性が高まっていると認識されていることが挙げられている。また、駅前再開発への期待値もあり、街の動向に注目が集まっていると分析されている。

これから人気が出そうな郊外の街ランキング	
第1位	武蔵小杉
第2位	立川
<b>第3位</b>	<b>和光市</b>
第4位	吉祥寺
第5位	海老名

#### ● 「埼玉県民住みたい街ランキング」第7位

「埼玉県民住みたい街ランキング」は、「住みたい街ランキング」のデータを、埼玉県在住の居住者別に分類したランキングです。埼玉県在住者から最も支持を得たのは「池袋」です。

本市は、平成27年の17位から7位に上昇した。理由としては、東京都心へのアクセスが良く、県内では、比較的大規模な再開発が控えていることで、今後の発展が期待されていることが挙げられる。

埼玉県民住みたい街ランキング	
第1位	池袋
第2位	大宮
第3位	浦和
第4位	赤羽
第5位	川越
第6位	吉祥寺
<b>第7位</b>	<b>和光市</b>
第8位	恵比寿
第9位	武蔵浦和
第10位	所沢

● 「行政市区ランキング住みたい街ランキング」第93位（埼玉県内9位）

（第1位：東京都港区、第2位：東京都世田谷区、第3位：東京都目黒区）

「行政市区ランキング住みたい街ランキング」は、住みたい行政市区ランキングの埼玉県内の順位を抜粋したランキングです。本市は埼玉県内では9位に位置しています。

本市を、「住みたい行政市区」として選んでいる理由としては、都心への距離が近い、通勤・通学先へ通うのに便利（電車・バス・自動車利用前提）、日常生活（買い物など）においてどこに行くにも便利（徒歩・自転車利用前提）、高速道路のインターチェンジやバイパスなどが近いなどの交通の利便性を挙げている人が多い。また、緑の豊かさやこれから発展しそうなどの要素も注目されている。

行政市区住みたい街ランキング（埼玉県内）	
第1位	さいたま市浦和区
第2位	さいたま市大宮区
第3位	川越市
第4位	川口市
第5位	越谷市
第6位	さいたま市南区
第7位	さいたま市中央区
第8位	さいたま市北区
<b>第9位</b>	<b>和光市</b>
第10位	草加市

② 次にくる住みたい街はここだっ！～和光市編～

（出典：不動産・住宅情報サイト「SUUMO（スーモ）」）

「次にくる住みたい街はここだっ！」では、編集部が独自取材でピックアップしています。次にくる住みたい街に、埼玉県内では大宮、川越に続き本市が紹介されています。

《和光市に住む主な利点》

- ・ 都心部へのアクセスが便利。始発列車が多いため、座って通勤可能。
- ・ 住宅街が駅の近くに広がっているため、駅近のマンションや一戸建てが多い。
- ・ 郊外に足を延ばせば、自然と触れ合えるスポットが点在していて、都会と田舎の両方が楽しめる。
- ・ 都心が近いわりに、古くからの地域コミュニティが維持されている。
- ・ 子どもからファミリー、お年寄りまで、人口構成のバランスがとれている。
- ・ 独自の高齢者介護、子育て支援制度が充実している。

### 3 本市の「強み」と「弱み（課題）」

---

市民意識調査及び各種調査結果等を踏まえ、本方針を策定するに当たり考慮すべき点を「強み」・「弱み（課題）」として以下のとおり整理しました。

#### (1) 本市の強み

##### ▼交通の利便性が良い

東武東上線、東京メトロ有楽町線・副都心線が和光市駅を通過しており、都心へのアクセスが容易です。また、川越街道などの幹線道路に加え、東京外環自動車道の和光市北ICと和光ICの2か所があり、交通の利便性が良いまちとして市内外から認識されています。

##### ▼若年層が多く今後発展していく可能性がある

15歳～64歳の生産年齢人口率が高く、若い世代が多いのが特徴です。また、和光市駅北口土地区画整理事業を施行しているなど、今後の発展について期待が高まっています。

##### ▼緑や自然が多い

樹林公園などの広い公園や湧き水などの自然が、まちの魅力として挙げられ、市外からも都会と田舎両方が味わえるまちとして注目されています。

#### (2) 本市の弱み（課題）

##### ▼市のPRが不足している

本市には広告塔となる有名人や文化人、キャラクターなどがいます。また、市内の自然や公園は市の強みとして挙げられています。しかし、これまでのシティプロモーションでは、それらの強みを活用し、市の魅力を十分にPRしているとは言えません。

市の知名度をさらに向上させるためには、市ゆかりの有名人や文化人、市の強みとなる魅力をより広くPRしていく必要があります。

##### ▼企業や他の機関との連携が不足している

市内には、国内外の有数の研究機関や企業が多く存在していますが、シティプロモーションにはつながっていません。

今後は、機関・企業等とのつながりを広げるとともに連携をより深め、市の特性としてPR等に生かしていくことが必要です。

##### ▼「交通の利便性」以外の魅力を感じている市民が少ない

市民や市外から見た本市の魅力として、都心へのアクセスや交通の利便性を挙げる人が非常に多くなっていますが、それ以外を魅力として挙げる人は少ない状況となっています。また、市のイベントや交流を魅力として挙げる人の割合はあまり多くありません。

今後は、「交通の利便性」以外の市の魅力を積極的にPRするとともにイベントを交流の場として活用し、市の魅力を訴求していく必要があります。